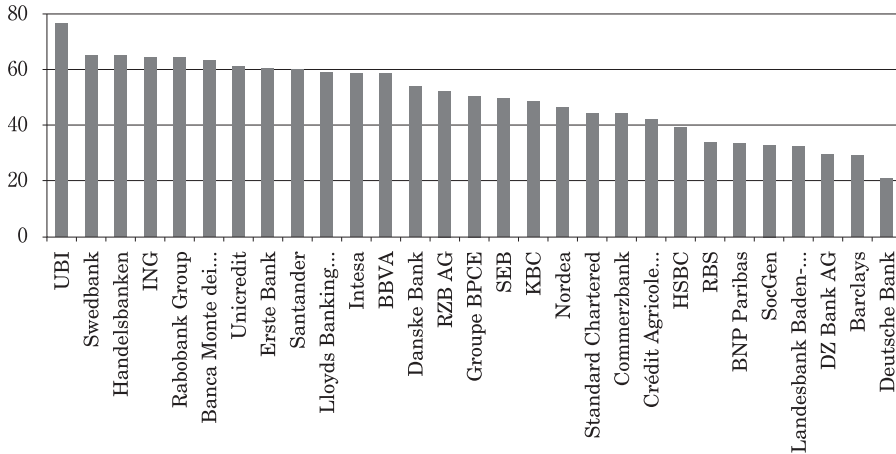
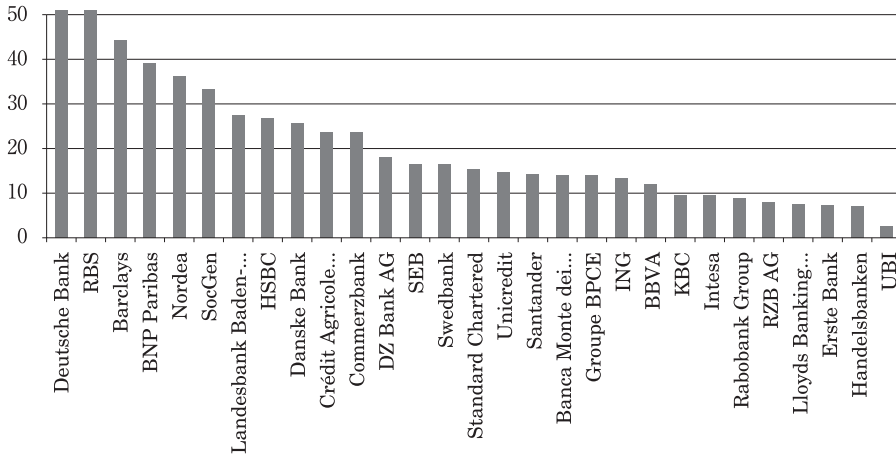


図3.4.5 EUの大銀行の顧客に対する純資産（2011年、総資産の%）



出所：データは SNL Financial.

図3.4.6 EUの大銀行のトレーディング用の保有総資産（2011年、総資産の%）

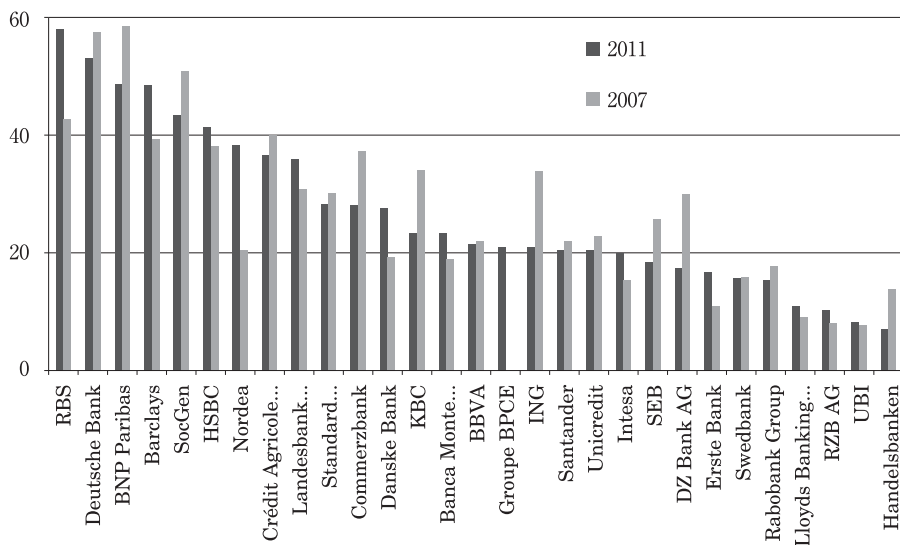


出所：データは SNL Financial.

- トレーディングのために限られた資産しか保有しない銀行がある一方で、そのような資産がバランスシートの20%以上を構成している銀行もある²⁹⁾。パークレーズ、BNPパリバ、ドイツ銀行、ノルディア、RBS、ソシエテジェネラルは、トレーディングのための保有資産が最高の比率となっている6行である（総資産の30%以上）。同じような構図は、2011年にトレーディングのために保有され、セールに利用可能な総資産を見る場合にも生じる。興味深いことに、これらの資産のバランスシートに占める割合は、いくつかの銀行については危機の発生以来低下しているけれども、増加している銀行もある。

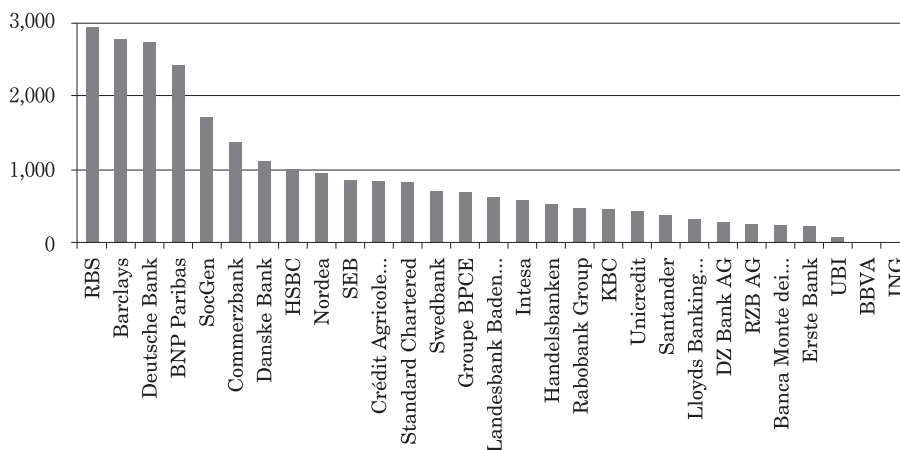
29) ここでのデータは、バランスシートの資産面しか考慮していないが、エクスポージャーの観点からは、トレーディング債務も考慮される必要がある。

図3.4.7 EUの大銀行がトレーディング用および販売用に保有する総資産（2011年と2007年、総資産の%）



出所：データはSNL Financial.

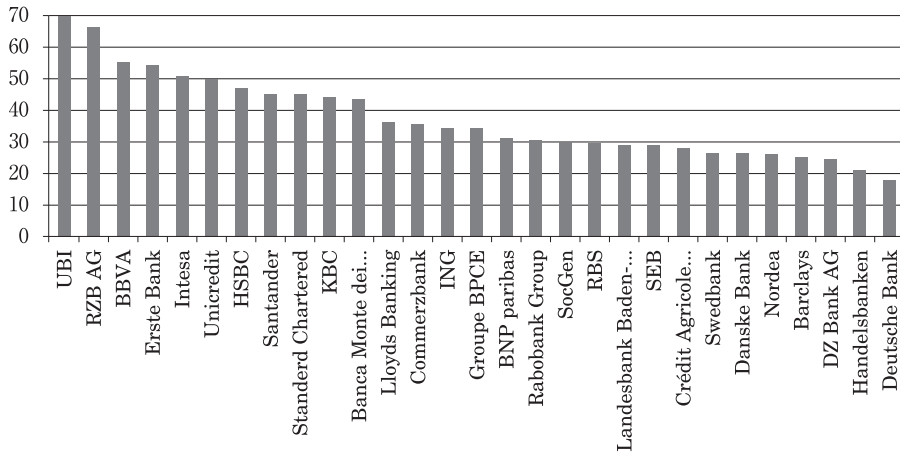
図3.4.8 EUの大銀行のデリバティブ残高の想定元本（2011年、総資産の%）



出所：データはSNL Financial.

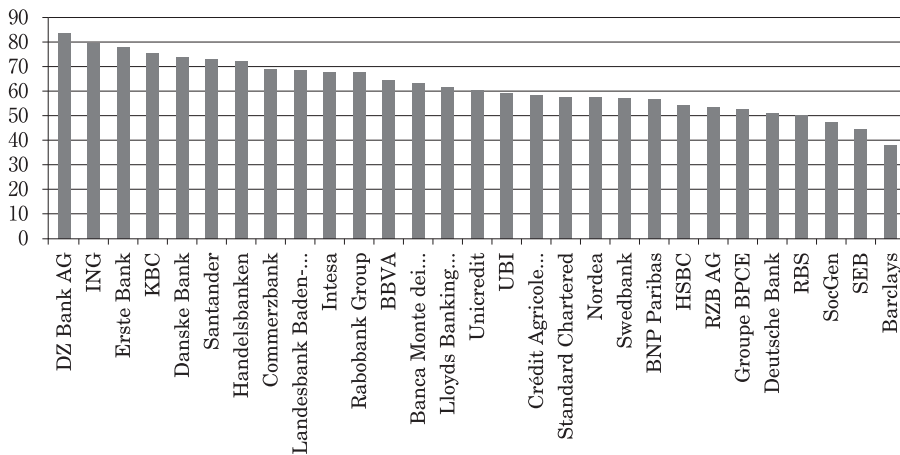
- いくつかの銀行は、総資産の規模に比較して、特別に高いデリバティブの想定元本を保有している。たとえば、4行（パークレーズ、BNPパリバ、ドイツ銀行、RBS）については、デリバティブ想定元本は、総資産の2000%を超えている。デリバティブの想定元本は、エクスポージャーを示すものではないことに注意しなければならないが、にもかかわらず、それは各々の銀行を通じたデリバティブ業務の程度の指標を提供してくれる。
- 総資産に対するリスクウェイト資産の比率は、銀行間で著しく異なる。最高額のトレーディング資産、デリバティブ想定元本等を持った銀行（すなわち、もっとも「伝統的」でない銀行）で、最低のリスクウェ

図3.4.9 EUの大銀行の総資産に対するRWA（2011年，％）



出所：データはSNL Financial.

図3.4.10 EUの大銀行の総営業収入に対する純金利収入（2011年，％）



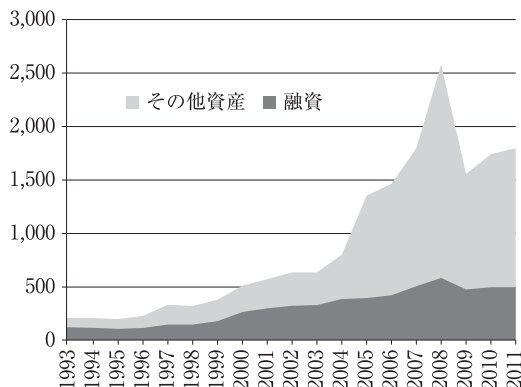
出所：データはSNL Financial.

イト資産比率しか持たない傾向が顕著となっている。リスクウェイトは、バーゼル3ないしEUのCRD IVの下で改定されている。

- 銀行間での業務の相違は、総業務収益に対する純金利収入の比率に反映されている。伝統的な預金獲得や貸付業務により携わっている銀行は、より大きな純金利収入を持つ傾向がある（典型的に投資銀行業務とより結びついた報酬、手数料、他の非金利収入とは反対に）。しかしながら、ほとんどの銀行にとって、純金利収入の割合は、2007年と比べて2011年に増加したことに注意しなければならず、それは非金利収入を生み出す業務からの収入の低下を反映している。

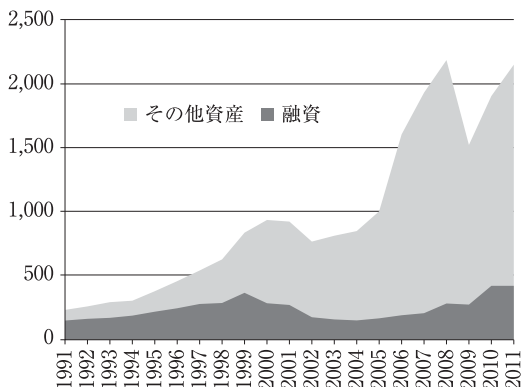
第2章で論じたように、全体レベルでかつ時間の経過とともに、銀行総資産に対する基本的な貸付業務の割

図3.4.11 バークレーズ銀行一資産の推移（単位：10億ユーロ）



出所：データは出版された資料による。

図3.4.12 ドイツ銀行一資産の推移（単位：10億ユーロ）



出所：データは出版された資料による。

合は低下したが、それは、銀行のバランスシートの資産側の展開でも明白であった。EU 大手銀行のうちの 2 行は、いかに（顧客向け）融資が総バランスシートの比率として低下しているかの例として使われている。

ボックス3.3：多角化と範囲の経済（不経済）に関する文献

範囲の経済は、業務コストや収入のシナジーやリスク分散の利益を含むが、理論的にはアピールするものの、その存在についての実証的証拠は弱い。

範囲の経済は、預金獲得と貸出を結びつけること（すなわち、伝統的銀行業務）から見出されるが、他の機能的な多角化の形態が価値を生むかどうかはあまり明白ではない（たとえば、伝統的銀行業と投資銀行業務の結合）。

非伝統的銀行業務の多角化は、機会の範囲を拡大し、リスクの分散につながるかもしれないが、これらの利益は、浮動性への増大するエクスポージャーのコストで帳消しにされるかもしれない（Stiroh, 2006, Stiroh and Rumble, 2006）。

多角化は利益相反をもたらすかもしれない。顧客は、提供される多様なサービスによって縛られることになるかもしれない（Rajan, 1992）。情報の優位性は、参入障壁を作り出し、切り替え行為をより少なくすることにより、競争を妨げるかもしれない（Dell'Ariccia et al., 1999）。

文献は、より多角化された複雑な金融機関がますます管理や監督が難しくなり、「大きすぎてもしくは複雑すぎて破綻させられない」と認識され、モラルハザードや過剰なリスクテイクの問題に至るかもしれないことへの懸念を提起している。

Lumpkin (2010) は、大手銀行グループと結びつきたいいくつかのリスクを特定しているが、それには、不透明なグループ取引、問題が起きた時にはグループ全体として支援するとの想定に基づいて、グループを過剰なリスクテイクに従事させるモラルハザード・リスク、ダブル・ギアリング（訳者注：リスクに対するバッファのためにグループでシェアされた資本を使うこと、資本の使い回し）のリスク、グループ内での伝染リスク、市場支配力の潜在的な乱用や利益相反が含まれる。

銀行による個々の多角化は、システム全体をより多様でないものにし、共通のショックに対してより脆弱

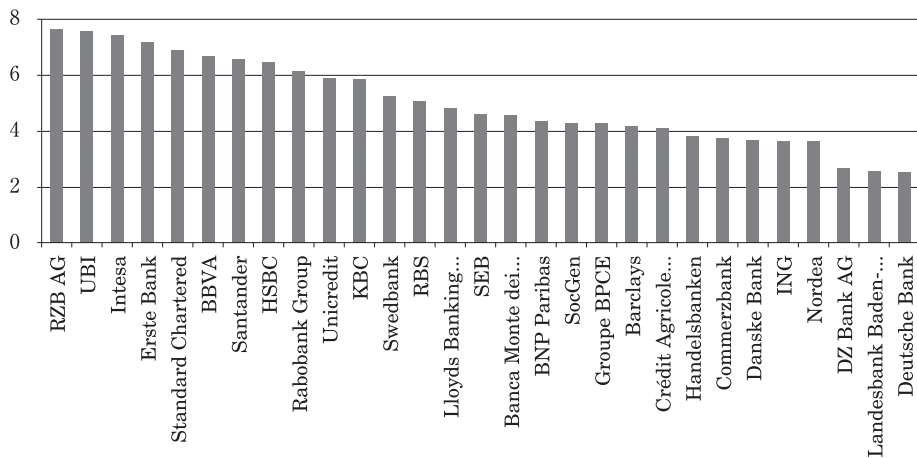
にしうる（Haldane, 2009）。時の経過とともに、システムレベルで多様性の喪失が生じた（銀行の多角化のせいや、リスク管理モデルの収斂等のせいでもある）。それゆえ、個々のビジネスモデルの費用便益は別にして、システムレベルで銀行のビジネスモデルの多角化を促進することは、それ自体利益になるかもしれない（上記ボックス3.1参照）。

注：より詳細な文献のレビューについては、付録4を参照。

3.4.3 資本並びに資金調達構造

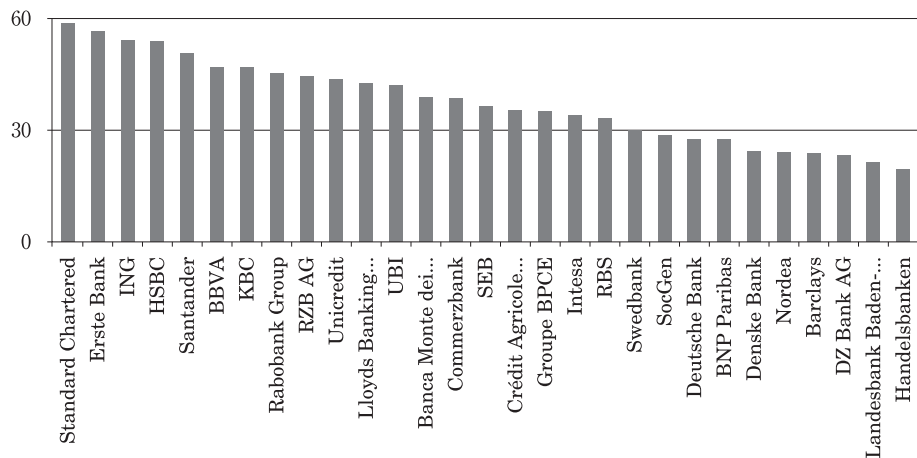
図3.4.13から図3.4.16は、2011年の個々の銀行の資本並びに資金調達構造についての基本統計を表している。

図3.4.13 EUの大銀行の総資産に対する総エクイティ（資本）の割合（2011年、%）



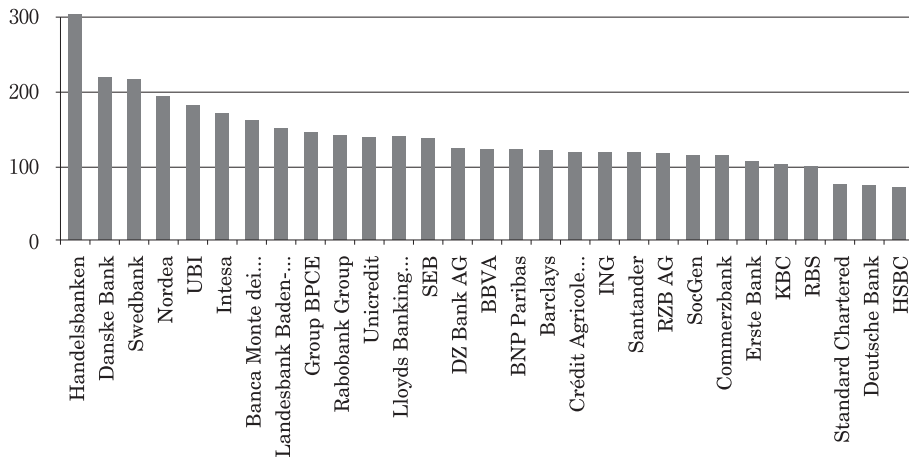
出所：データはSNL Financial.

図3.4.14 EUの大銀行の預金調達比率（2011年、総資産における顧客預金の%）



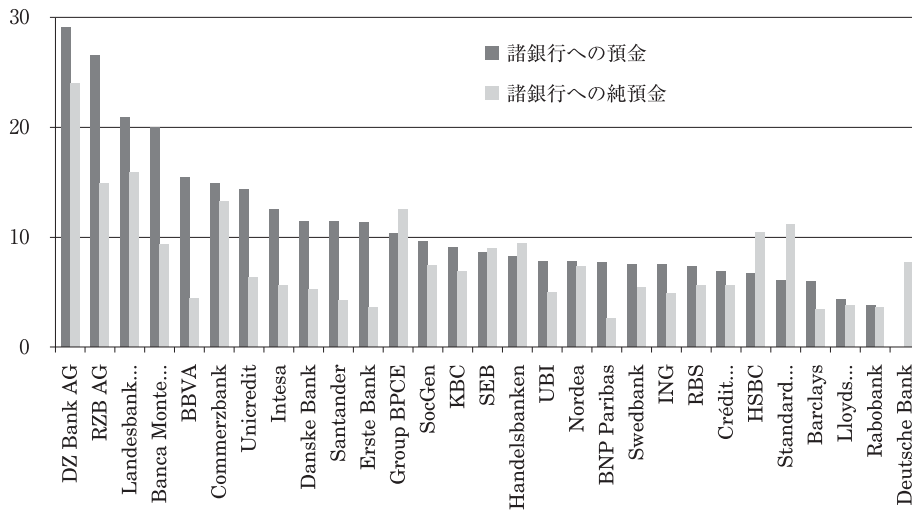
出所：データはSNL Financial.

図3.4.15 EUの大銀行の顧客融資対預金比率（2011年、%）



出所：データはSNL Financial.

図3.4.16 EUの大銀行のインターバンク預金対融資比率（2011年、総資産の%）



注：諸銀行への純預金は他の銀行との融資と前貸あるいは預金を示す。

出所：データはSNL Financial.

- 総株主資本の比率は、大きく異なっており、個々の銀行のレバレッジの著しい相違を反映している（図3.4.13）。いくつかの銀行に関しては、総資産に対する総資本の比率は4%以下となっている。
- 著しい相違は、たとえば、顧客預金を通じた伝統的な資金調達（図3.4.14）の程度や預貸率（図3.4.15）にも関係している。
- 大手銀行は、他の銀行への融資や他の銀行からの預金のシェアで測られた、インターバンクのエクスポージャーの程度（図3.4.16）においても様々である。